

項目	観点	教科書名				
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	小学生の国語(15・三省堂)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるために、どのように配慮されているか。	○「読むこと」の領域の教材を中心として構成しながら小教材で全領域を偏りなく扱い学習の手引きで交流活動を位置付けるなど配慮されている。 ○文学的な文章や説明的な文章などから、さまざまな表現を学ぶことができる。 ○「書くこと」の領域では、さまざまな文章を書く教材が設定されている。書き方が具体的に示されており、実生活に生きる確かな表現力を身に付けられるよう配列されている。 ○交流活動の内容が学年ごとに系統立てられている。	○「読むこと」の領域の単元を多く設定しながら複合単元も扱い、学習の手引きに計画的な交流活動を設け、自分の考えを表現する力や相手の考えを理解する力を育てられる。 ○コミュニケーションコラムが系統立って位置付けられている。「話す・聞く」が大単元で取り上げられており、「書く」と関連して学習できるようになっている。	○「読むこと」の領域の単元を多く設定しながら小教材で全領域を扱い、単元末には、「話し合いました」という文章で交流活動を位置付けている。	○「読むこと」の領域の単元を中心に全領域を扱い、単元末に交流活動を設定し児童の反応や作品例を内容・表現面から示すなど配慮されている。 ○巻末の「ふろく」に「この本で学ぶこと」というページを設け、各領域の学習内容と手順、交流活動について段階的に示してある。 ○誰に何のために書くのかなど、相手意識や目的意識を明確にした「書くこと」の単元が配列されている。	○「読むこと」の領域を中心とした単元を設定しながら小教材で全領域を扱い、文学的な文章や説明的な文章などから、さまざまな文章表現を学ぶことができるよう配慮されている。 ○単元末の「たいせつ」には、段階的・系統的に身に付ける力が明記されている。 ○「話す・聞く」での交流活動例が具体的に示されている。
	○思考力や想像力及び言語感覚を養うために、どのように配慮されているか。	○発達の段階に応じた思考力を養う教材の設定や、語彙を拡充し定着させる言語教材の系統的な位置付けに配慮されている。 ○「読むこと」の領域では、親しみやすい題材や内容の教材が設定されている。特に、説明的な文章での比べ読みを通して、児童の考えを培う優れた教材がある。また、年表や図、グラフや写真などを対応させながら読ませることで、読解力や思考力の向上をねらっている。 ○語彙を拡充し定着させる言語活動の系統的な位置付けに配慮されている。巻末には、「ことばのせかい」で、まとめが掲載されているため、言語感覚を養う上で必要なことを確認することができる。	○思考力の育成につながる「書くこと」の基本的な技能を学ぶ教材の設定や、言語感覚を養う小教材の系統的な位置付けに配慮されている。 ○説明的な文章では、身近な話題を取り上げ、思考力の向上をねらった教材文が取り上げられている。 ○「ことばのいずみ」で、言語事項がわかりやすく記載されており、言語感覚を養う言語小教材の系統的な位置付けに配慮されている。	○思考力を養う教材と想像力を養う教材のバランスよい配分や、分冊『学びを広げる』を活用した言語感覚の育成に配慮されている。 ○説明的な文章では、図やグラフ、写真や地図を対応させながら読ませることで、思考力の助けをねらったものが見られる。 ○入門期における読み物には、身近なものに目を向けた内容のものが多く、想像力を働かせる学習に適している。	○思考力を養う教材の3領域へのバランスよい配分や、児童の日常生活に結び付けた言語単元や小教材の設定に配慮されている。 ○「読むこと」の領域において、思考力を養う教材を多く配分している。特に説明的な文章では、現代的なテーマを取り上げるとともに、写真やイラスト、表や漫画などを添えることでより身近なものとして考えやすく工夫している。 ○日常生活に結びついた言語単元が系統的に配置されており、段階をおって言語感覚を養えるように配慮されている。	○学習の手引きを2段組で構成し、上段に思考力を養うための課題、下段に活用力や言語感覚を養うための課題を示すなど配慮されている。 ○説明的な文章では、現代的なテーマを取り上げ、より身近なものとして考えやすくするとともに、図やイラスト、写真、天気図などを対応させて読ませることで、読解力や思考力の伸長を図っている。 ○日常生活に結び付いた言語単元が系統的に配置されており、段階をおって言語感覚を養えるように配慮されている。
	○国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるために、どのように配慮されているか。	○伝統的な言語文化の作品を小教材「日本の言の葉」で取り上げ、教材と関連のある図書の紹介を通して読書の充実に配慮されている。 ○「日本の言の葉」で伝統的な言語文化に対する単元を系統的に取り上げており、現代に生きる自分達と比較して考える工夫がなされている。音読することに重点が置かれており、親しみやすく言語文化に触れられる。 ○各単元末には「こんな本もいっしょに」として並行読書・発展読書につながるような図書の紹介が設けられるほか、長期休業前の図書紹介など、読書の充実に配慮する工夫がある。 ○2年以上において「日本語のしらべ」というページが設けられており、詩や俳句、短歌、和歌が写真とともに紹介されており、日本語の美しさに触れる工夫がなされている。また、「話す・聞く」「書く」に発展できるようになっている。	○伝統的な言語文化の作品を音読や創作の題材として取り上げ、読書案内や資料編で図書の紹介を行うことで読書の充実に配慮されている。 ○声に出して読むことを楽しめるように配慮し、伝統的な言語文化を取り上げている。 ○各単元末には「本と友達」として並行読書・発展読書につながるような図書の紹介が設けられるなど、図書紹介などの読書の充実に配慮する工夫がある。	○分冊などに伝統的な言語文化の作品を幅広く取り上げ、読書ガイドや図書館活用の教材を設定することで読書の充実に配慮されている。 ○三領域の教材との関連教材で伝統的な言語文化を取り上げている。 ○各単元末には「わたしの本だな」として並行読書・発展読書につながるような図書の紹介が設けられるほか、別巻「学びを広げる」にも図書紹介の欄があり、読書の充実に配慮する工夫がある。	○伝統的な言語文化の作品を児童の生活と関連させて取り上げ、表現活動を取り入れた読書単元を設定することで読書の充実に配慮されている。 ○各単元末には「本を読もう」として並行読書・発展読書につながるような図書の紹介が設けられるほか、上下巻それぞれの巻末にも図書紹介の欄があり、読書の充実に配慮する工夫がある。	○発達の段階に応じ、読み聞かせる教材に伝統的な言語文化の作品を取り上げ、図書の紹介や図書館活用の教材で読書の充実に配慮されている。 ○各単元末には「この本、読もう」として並行読書・発展読書につながるような図書の紹介が設けられている。 ○2年以上において「きせつの言葉」という小教材が季節ごとに位置付けられている。詩や俳句・短歌など季節感を感じる作品が紹介されており、音読や暗唱を楽しみながら伝統的な言語文化に親むことができる。

項目	観点	教科書名				
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	小学生の国語(15・三省堂)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
2 内容の程度及び取り扱いについて	<p><基礎・基本の定着のための工夫></p> <p>○日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を身に付けさせるために、どのような工夫がみられるか。</p>	<p>○言語に関する事項を単元後や付録で繰り返し「言葉の力」として明示し、各教科等に活用できる言語能力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○調べたことをポスター、新聞、レポートなど様々な形式で書く活動が行われるようになっていく。また、組み立てメモなどもくわしく例示してあり、他教科や日常生活に幅広く生かせる力を付けていけるよう配慮されている。</p> <p>○1年生では、助詞「は」「へ」「を」の使い方について学ぶ小単元が設けられている。</p>	<p>○抜き書きやまとめの表の作り方など学び方を学ぶ演習教材を設定し、各教科等にも関わる言語活動の基礎・基本の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○単元末には「言葉の力」として、具体的な学習過程や付けるべき力について示されている。</p> <p>○1年生では、助詞「は」「へ」「を」の指導内容が丁寧に扱われている。2年生では「比べて書く」、4年生では、新聞作りや四コマ漫画を使ったお話作りなどを「書く」題材として取り上げている。できあがりの全体像は分かるが、細かい文章の書き方などには触れていない。</p>	<p>○「覚えておきましょう」において言語に関する事柄を示し、各教科等への活用や基礎的・基本的な言語能力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○話合いや記録文、詩を書く、新聞を作るなどの「書く」活動がある。書くための流れは分かるが、書き方が簡単にしか書いていない。</p> <p>○1年生では、助詞「は」「へ」「を」の使い方を学ぶ小単元があるが、内容があっさりしている。</p>	<p>○言葉の使い方を学ぶ体験型学習で日常生活を振り返り、話し合ったり書いたりする活動を設定して、語彙の拡充と定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○報告文を書く活動がある。組み立て表の中に使用できる資料などの活用例を載せてある。</p> <p>○1年生では、助詞「は」「を」「へ」の使い方を学ぶ小単元があるが、助詞「は」の学習において、「は」と「わ」の例文が分かりにくい。</p>	<p>○指導内容を分割して各単元に配当し、発達の段階に応じて繰り返し学習する螺旋的な構造で、基本的な言語能力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○「コラム」として教材の補助的な事柄を載せてあり、新聞やパンフレット、レポートを書く活動を取り入れ、学習の流れを示している。</p> <p>○文章の書き方も「組み立て」が分かるようにまとめてあり、単元末の「たいせつ」では、言語能力の定着を図れるよう配慮されている。</p> <p>○1年生では、助詞「は」「を」「へ」の学習があり、ポイントを絞った例文が大きく見やすい表記され、定着を図る配慮が見られる。</p>
	<p><関心意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫></p> <p>○課題に応じて必要な文章や資料を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりするために、どのような工夫がみられるか。</p>	<p>○新聞や広告など生活に密着した題材の活用と、それを読み比べる学習により、まとめ方や表現や主張点の違いなどの言語能力を各教科等へ生かせるような工夫が見られる。</p> <p>○単元毎に「つながる」を設け既習事項を振り返り、単元の最後に「ひろがる」を設け他教科への学習のひろがりを喚起することで、関心意欲を高められるような発展的な構成になっている。</p> <p>○物語文や説明文のページ目に小表紙を設け、絵や写真、単元の目標やあらすじを掲載することで学習への関心意欲を高められるような構成になっている。</p>	<p>○教材中に図や絵、写真などを多用するとともに、言語活動に取り組むための教材や図解の仕方に思考過程を示す工夫が見られる。</p> <p>○説明的な文章の前に「読むレッスン」として短い説明的な文章があり、その後、説明的な文章を読み比べ、それをもとに説明的な文章を書く教材であり、主体的な学習活動を促す工夫が見られる。</p> <p>○5年生では新聞記事を読み比べ、紙面に見られる記事の書き手の意図を読み取る学習、6年生では新聞の投書を読み比べて説得の工夫について読み取る学習がある。</p>	<p>○教材が関連しながら系統的に配列されるとともに、分冊『学びを広げる』により、習得した力を活用できるような工夫が見られる。</p> <p>○おもちゃ作りを通して、説明的な文章を読み進めていく学習活動やそれをもとにして説明的な文章を書く学習があり体験を通して主体的な学習活動ができるよう工夫されている。</p>	<p>○見開きページで年間の学習を見通し、説明的な文章の並列や読み書きに生かす単元で習得したことを活用できるような工夫が見られる。</p> <p>○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるようにすることにおいて他教科との関連が図られている。</p> <p>○学年で最初に扱う説明的な文章において、短い説明的な文章で読み取りの練習をすることができるようになっている。</p>	
	<p><個に応じた指導のための工夫></p> <p>○相手や目的に応じて、調べたり考えたりしたことを、表現する能力を身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。</p>	<p>○「てびき」や「つながる」で既習事項や学習過程を示すことで表現力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○話合いの進め方が、分かりやすく示されており、相互に思考を深めていける工夫が見られる。</p> <p>○国語のノートの使い方が学年の最初に示されている。単元末の「言葉の力」に学ぶポイントが示されている。「読む」教材の単元末に「てびき」があり、学習する内容がわかるようになっている。</p> <p>○資料提示の仕方が多様で、児童が興味関心をもって取り組める工夫が見られ、いろいろな書く形式の教材が設けられていて、書く力を付けられる。</p> <p>○5年生では委員会活動の内容をリーフレットにまとめ、級友に報告する学習活動、6年生では資料を集めてプレゼンテーションをしたり、6年間を振り返って文章にし、友達や下級生に伝えたりする学習が設定され、相手意識や目的意識をしっかりとって学習が進められるような配慮がある。</p>	<p>○書き込める学習の手引きで学習過程を示すとともに、ポイントを一文に示した振り返りを設定することで表現力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○単元ごとに、学習の進め方が示されている。</p> <p>○話合いの仕方や準備について詳しく丁寧に進め方が書かれており、相互に思考が深められる学習展開になっている。</p> <p>○観察文・意見文・お話作りなど、多彩な活動が設定されている。</p> <p>○5年生では、来年の新生を対象に学校紹介をするための原稿を作成する学習、6年生では約半年をかけて資料を収集し卒業レポートをまとめ、級友や家人、他学年に発表する学習が提案されている。単元の学習の流れについて説明している箇所があり、手順が分かりやすくなっている。</p>	<p>○学習の手引きで課題に沿った活動を示すとともに、教材の関連性を意識した振り返りを設定することで表現力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○別冊「学びをひろげる」では、発展学習を促す配慮がされている。</p> <p>○単元の最後にどのように学習を進めていくかが簡単に示されている。</p> <p>○観察文や意見文など、日常生活や他の教科に生かせる教材がある。</p> <p>○5年生では、地域のよいところを級友に紹介するグループ新聞を作成する学習、6年生では身近にあるもののよさを伝えるためにキャッチコピーや文章を入れたポスターをつくる学習や、6年間を振り返って今まで書いた文章や書き下ろした文章、写真などを載せたマイブック作りの学習が提案されている。</p>	<p>○学習の手引きで単元を貫く言語活動を示すとともに、進め方、作品例、振り返りを示すことで表現力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○「読む」教材の後には、「ここが大事」と学びのポイントが示されている。「聞く・話す」の単元において「ふり返り」があり、ポイントにそって振り返ることができるようになっている。</p> <p>○説明の仕方や観察文など書く学習が設定されており、日常生活や他の教科の学習に生かせる言語活動になっている。</p> <p>○5年生では委員会活動の内容をポスターにまとめ、掲示して見ってもらう学習活動や、さまざまな活動の報告をする文書作り、6年生では来年の新生を対象にした学校紹介パンフレット作り、伝える相手を決めた上で創作物語に取り組む単元がある。</p>	<p>○学習の手引きで単元の進め方を構造的に示すとともに、活用を意識した振り返りを設定することで表現力の定着を図る工夫が見られる。</p> <p>○単元ごとに「大切」の欄があり、学習の見通しや身に付けたい力、学び方が示されている。脚注には、新出漢字の読み方や言葉の意味などが丁寧に記載されている。</p> <p>○話合いの学習が進め方が分かりやすく示されている。</p> <p>○単元末に「学習」があり、学習の進め方が示されている。「たしかめよう」で学習の流れを示している。「読む」の単元の終わりには「ふり返ろう」、「書く」と「話す・聞く」の後には「ふり返ろう・生かそう」という項目があり、ポイントにそって振り返ることができるようになっている。</p> <p>○作り方・観察記録・活動報告文など他教科との関連を図り学習が展開できる工夫がされている。</p> <p>○5年生ではクラブ活動や委員会活動の内容を報告書にまとめ、級友や次年度の5年生に読んでもらうという単元、掲示して見ってもらう学習活動や、さまざまな活動の報告をする文書作り、6年生では町のよさを紹介するパンフレット、未来への提言、随筆などの学習が取り上げられている。学習の流れがつかみやすい工夫が見られるが、特に6年生のほうでは「目的意識」や「相手意識」が弱く感じられる。</p>

項目	観点	教科書名				
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	小学生の国語(15・三省堂)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
3 構成・配 列・分量	○単元構成及び教材の配列や各領域の学習系統性には、どのような特色があるか。	○単元を貫く課題に応じて学習に取り組めるような活動が設定されている点や、「つながる」を設けて既習事項を振り返る点に特色が見られる。 ○一単元、一領域から、活用力を養う総合単元へと各学年とも系統性が重視されている。 ○単元ごとに「ひろがる」があり、学習で身に付けたことがどのような場面で生かされるかが示されている。	○「読むこと」の単元の前に、「読むレッスン」が設定されており、次の学習に生かせるよう工夫されている点に特色が見られる。 ○説明的な文章や文学的な文章、話すこと・聞くことの関連指導を考慮している。	○各学年とも、教材の配列を同様にするので、前学年との系統性が捉えやすく、学習の系統性を意識できるようにしている点に特色が見られる。 ●分冊「学びを広げる」と本冊の教材との対応がしづらい。	○「習得」した学習内容を「活用」しながら、新たに「習得」したことを加えて、系統的に積み重ねている点に特色が見られる。 ○言語事項について学ぶ小単元が定期的に組まれている。	○「読む」と「聞く」、「書く」と「話す・聞く」など他の領域と関連させた学習が効果的に行えるよう配列を工夫している点に特色が見られる。また、系統性も考慮されている。
	○単元及び教材の関連性や分量には、どのような特色があるか。	○3教材において生命尊重に関わる教材を取り上げ、児童に考えさせたいテーマを提示している点に特色が見られる。 ○メモの取り方(話す・聞く)の後に新聞作りがあり、関連が見られる。 ○各領域の学習内容がバランスよく学べるようになっており、文学的な文章や説明的な文章の種類が豊富である。	○2領域3教材において、環境教育に関わる教材を多く取り上げ、今日的課題を提示している点に特色が見られる。 ○複数領域を関連させた単元になっている。	○伝記、作家や随筆、歴史上の人物の資料を扱い、自分の生き方を見つめる単元が充実している点に特色が見られる。 ○2年生から合本になり単元の数は少なく丁寧に作られている。	○3領域にわたって、環境、生き方、伝統文化、言葉など児童に考えさせたいテーマを偏りなく取り上げている点に特色が見られる。 ○言語活動を意図的に配列し、復習や応用が図れるようになっているが、単元や文の種類が多い。	○伝統文化、伝統芸能に関わる教材を多く取り上げ、我が国の言語文化に触れ、感性や情緒を育もうとする点に特色が見られる。 ○読み物教材の内容が充実しており、かつ、単元の分量にゆとりをもたせることで、それに関連させる形で多領域の教材が配列されている。
4 表記・表 現	○表記については、漢字や言葉においてどのような工夫が見られるか。	○巻末に、言葉に関する知識を整理した資料や様々な視点で言葉を集めて分類した「言葉の広場」を掲載している点に工夫が見られる。 ○巻末に新出漢字の読み方や筆順がまとめてあり、例語や使い方が複数示されている。 ○下部脚注に新出漢字の音訓が示されるほか、巻末に筆順と主な用例が示されている。 ○前学年に学習した漢字を書かせる復習ページが設けられている。 ○4年生においてローマ字の復習ページや巻末に「ローマ字の表」がある。	○学習がある程度進んだ段階で「新しい漢字」として、新出漢字を改めて確認できるよう提示している点に工夫が見られる。 ○漢字の筆順について、「かんじのまとめ」がある。各ページには新出漢字の読み方が明記されている。 ○下部脚注に新出漢字がふりがな付きで示されているほか、巻末に筆順と主な用例が示されている。	○分冊は、言語事項の項目を検索しやすい「言葉のポケット」や、漢字にふりがなをつけた「読書の森」で構成されている点に工夫が見られる。 ○単元に入る前に、漢字を学習する構成になっており、筆順も含めてまとめて示されている。そのため、各ページの新出漢字に読み方は示されていない。 ○前学年に学習した漢字を読ませる復習ページが設けられている。 ○4年生においてローマ字の復習ページがある。	○巻末に、関連する語句を集めて語彙を増やすことのできる資料「言葉の木」などが掲載されている点に工夫が見られる。 ○巻末に新出漢字と前学年で学習した漢字がまとめて示されている。筆順や主な用例などが明記されており、自主的な学習がしやすい。 ○下部脚注に新出漢字がふりがな付きで示されている。	○各学年「漢字の広場」を設け、漢字の学習と合わせて様々なテーマでの短文づくりも学習できるようになっている点に工夫が見られる。 ○単元末に新出漢字のみが、巻末に筆順や主な用例がまとめて示されている。各ページの下部脚注に言葉の意味が丁寧に説明されている。 ○前学年に学習した漢字を読ませる復習ページが設けられている。 ○4年上巻の巻末にローマ字表が掲載されている。
	○表現については、写真や挿絵、図表等においてどのような工夫が見られるか。	○見開き一面の写真や広告ちらしの例の掲載など、内容の理解や学習意欲の喚起に役立つ視覚的な資料が随所に示されている工夫が見られる。 ○説明的な文章においては、写真や挿絵を掲げ、文章の内容を理解しやすいように配慮されている。写真で表現しにくいところは、挿絵が使われている。学習の際の参考資料として活用できる。	○読み聞かせ教材でのイメージ写真の掲載、絵から文章を書く単元の設定など、視覚的な資料を効果的に用いる工夫が見られる。 ○写真や挿絵で、文章の内容を理解しやすいように配慮されている。	○読み聞かせ教材でのイラスト、絵や写真から想像を広げる活動など、視覚的な資料からイメージを豊かに広げる工夫が見られる。 ○絵と写真を組み合わせることで筆者の意図をより正しく伝えようとしている。アニメーションの主人公などが用いられている。	○各学年上下巻にある写真付きの折り込みの読書コーナーや、紙面全体を使った写真やイラストなど、興味を引く教材の提示に工夫が見られる。 ○絵と写真を組み合わせて文章の内容理解を助けるとともに筆者の意図を正しく伝えようとしている。	○絵や写真と文章を対応させながら読む教材が配置され、視覚的な資料から情報を読み取る学習が設定されている工夫が見られる。 ○写真やイラストが多く、美しい。イメージをつかみやすい。

項目	観点	教科書名			
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	小学生の国語(15・三省堂)	ひろがる言葉小学国語[17・教出] 国語(38・光村)
5 体裁, 使用上の便宜	○体裁については, 印刷・製本等においてどのように配慮されているか。	○1～4年生は上下巻二分冊, 5～6年生は学年一冊の合本である。合本はやや重たいが学習の見通しがもてるように配慮されている。折り込みページが多く取り入れられ, 興味・関心を高めるよう配慮されている。 ○環境に優しい再生紙と植物油インクを使用している。カラーユニバーサル観点から配色及びデザインの検証が行われており, 読みやすさと見やすさに配慮したユニバーサルデザイン書体を使用されている。 ○表紙に折り線があり, 使いやすい。	○1年上のインデックス形式や, 小单元ごとに色分けされた小口により, 学習内容が探しやすいよう配慮されている。 ○環境に配慮した紙と植物油インクを使用している。また, 色覚の個人差を問わず, できるだけ多くの人に見やすいように配慮されている。 ○巻末に資料編がある。 ●表紙に折り線はない。 ●全学年とも上下巻二分冊である。(高学年は合本の方が使いやすい)	○1年生は上下巻, 2～6年生は「国語」・「言葉」の二分冊である。「言葉」については, 各教科等でも使用し学習が生かせるよう配慮されている。 ○環境に優しい用紙と植物性インクを使用し, カラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ○色彩や写真が鮮やかである。 ○表紙に折り線があり, 使いやすい。 ●2～4年生は合本であり, 持ち運びが大変である。(5, 6年生は体格・体力の関係で合本でも持ち運びに問題なしと判断) ●2～6年生の「言葉」が分冊になっており, 使いづらい。	○1年生上巻では, 穴あき加工やポップアップの付録, 折り込みの読書案内により, 児童が読書に親しめるよう配慮されている。 ○環境に優しい再生紙と植物油インクを使用している。また, 色覚の個人差を問わず, より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ○巻末の付録が充実している。 ○表紙に折り線があり, 使いやすい。 ●全学年とも上下巻二分冊である。(高学年は合本の方が使いやすい)
	○使用上の便宜については, 文字や目次・注記等においてどのように配慮されているか。	○本文は本教科書のため開発した教科書体を使用している。注記は新出漢字を青枠で囲むなど視覚に配慮されている。 ○行間が十分にあり, 文字を追いやすく, 書き込みスペースもある。 ○目次には教材名と単元領域が示されるほか, 目次の次に, 年間の見通しをもてるようなページを設けている。 ○本文下に行数を示す数字(5,10)と目盛りがあり使いやすい。	○本文は書き文字に近い独自の教科書体を使用している。注記はイラストマークを使用し自主学習に配慮されている。 ○目次は, 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習項目が他の学習と分離して下段に示されているため, 見やすくなっている。 ○本文下に行数を示す数字(5,10)がある。	○本文はやや大きめの教科書体を使用している。注記はカラーイラストで, 語句の理解を助けるよう配慮されている。 ○目次には, 単元や教材文に関連するイラストが配置されており, 学習内容がイメージしやすくなっている。 ○目次の次に各教材のねらいを領域ごとに示し, 年間の見通しをもてるように工夫されている。 ○本文下に行数を示す数字(5,10)がある。	○本文はやや大きく太字の教科書体を使用している。注記は絵を多く掲載しイメージを共有できるよう配慮されている。 ○本文下に行数を示す数字(5,10)がある。